

『播磨国風土記』と玉丘古墳……………1・2 イベントスケジュール……………7・8
 西村和平加西市長×藤田二郎兵衛氏対談……………3・4 1300年祭に向けてのメッセージ……………9
 能・狂言のご紹介……………5・6 グルメフェア紹介……………10

『播磨国風土記』と玉丘古墳

「播磨国風土記の里」加西によこそ!



フドッキー博士

風土記とは

奈良時代初期の国別地方誌で、元明天皇(661~721年)の詔により、各国庁が編纂したものです。律令制度を整備し、全国を統一した朝廷は、各国の事情を把握する必要があったため、中国の事例に倣い風土記を編纂させ、地方統治の指針にしようとした。

この官命の内容は、各国ごとに

- 1 郡や里などの地名に好字(漢字2字)を用いる
- 2 郡内の物産品目
- 3 土地の肥沃度
- 4 山川原野の名とその由来
- 5 土地の伝承

をまとめた報告書の提出を命じるものでした。

この命令により各国から提出された報告書は、当時は「解」と呼ばれていま

たが、後に国名を付け「○○国風土記」と呼ばれるようになりました。

同時期に完成した書物として、『古事記』(712年)と『日本書紀』(720年)がありますが、『古事記』『日本書紀』が日本の成り立ちについて記述されているのに対し、風土記は地方の様子を記述されているところに特徴があります。

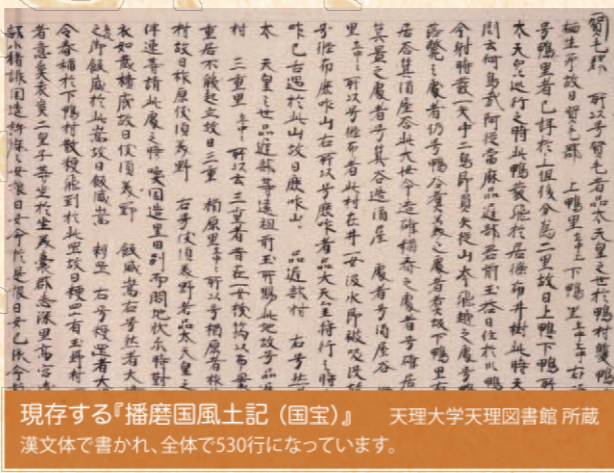
『播磨国風土記』とは

各国で作成された「風土記」ですが、そのほとんどは散逸してしまい、現存するのは、常陸国(茨城県)、出雲国(島根県)、豊後国(大分県)、肥前国(佐賀県・長崎県)と播磨国の五か国のみで、『播磨国風土記』は715年頃編纂されたと考えられています。

現存する風土記は朝廷に提出された原本ではなく、すべて写本で発見されています。『播磨国風土記』の場合は、平安



玉丘史跡公園



現存する『播磨国風土記(国宝)』 天理大学天理図書館蔵
漢文体で書かれ、全体で530行になっています。

を知ることが出来ます。

玉丘古墳と根日女伝承

玉丘古墳は、加西市にのこる前方後円墳で、全長約109m、兵庫県下で6番目の規模を誇っています。『播磨国風土記』の中で根日女という女性が葬られていると伝わっています。

玉丘古墳と根日女については、『播磨国風土記』賀毛郡榎原里の中で次のように記されています。

『玉野という村があります。その名がついた理由は、意(二)十四代仁賢天皇、袁(二)十三代顕宗天皇の二人の皇子たちが、美(三)の郡の志深の里の高宮におられた時、山部の小楯をつかわして、国造の許麻の娘の根日女に求婚されました。そこで根日女は、この求婚をありがたくお受けしましたが、二人の皇子はお互いに譲り合って結婚に踏み切らな

かった。そこでつするうちに歳月だけ流れ、根日女は年老いこの世を去った。皇子たちは大変哀しみ、すぐに小立(おたて)をつかわして、「朝日から夕日まで一日中日があたる土地に墓を作って、根日女を埋葬し、玉で墓を飾ってやろう」とおっしゃいました。そこで、この墓を玉丘と名づけ、その村を玉野と名づけました』

「加西市播磨国風土記1300年祭」の開催

2015年『播磨国風土記』は編纂1300年を迎えます。加西市では3年の歳月をかけて、市をあげて風土記事業を推進してきました。

そのハイライトともいえる「加西市播磨国風土記1300年祭」を、5月4日、5日風土記ゆかりの地である玉丘史跡公園において開催します。

時代後期に書き写されたもので、江戸時代末期の嘉永五年(1852年)に、京都の公家三条西家から発見されました。しかし、写本とはいえず貴重なものにかわりなく、国宝に指定されています。

『播磨国風土記』は「国郡里制」という行政単位で記述されており、各「国」の下に「郡」を置き、その下に「里」を置きました。た。「加古郡」「印南郡」「飴磨郡」「揖保郡」「讃容郡」「宍粟郡」「神前郡」「託賀郡」「賀毛郡」「美(三)の郡」の順で記述されており、播磨国の総説と、それに続く「明石郡」と「加古郡」の冒頭、「赤穂郡」の記述が残念ながら欠落しています。

『播磨国風土記』をとおし、1300年以上も前の私たちのふるさとごの様子



「根日女伝承」をテーマにしたマンガ本『ねひめのとき〜根日女伝説×「バフェック!」〜』 ななじ眺著(加西市出身・少女マンガ家)



ねひめの森 玉丘史跡公園に設置された幼児から小学生まで楽しめる大型遊具エリア。

ゆかりの地紹介

【鴨坂】
品(三)太天皇の命令で放たれた矢が、当たったまま2羽の鴨が山の峰を越えて飛んで行ったところ。(加西市鴨谷町・鴨坂)

【煮坂】
矢で射とめた鴨を羹(あつもの)にして煮たところ。賀毛郡と託賀郡の郡境だった峠。(加西市河内町・二か坂)

【修布の井戸】
水を汲もうとした女性が、吸い込まれた井戸が今の残る修布の井戸。(加西市吸谷町・修布の井戸)

【鹿咋山】
応神天皇が狩りに出た時に、自分の舌を噛みながら歩く白い鹿に出くわした山。(加西市北条町黒駒・女鹿山)

【三重の里】
女性がタケノコを抜いて、布に包んで食べたところ、体が三重に折れ曲がって座り込み、立ち上がれなくなったことから名づけられた。(加西市北条町から下里川流域)

【飯盛嵩】
大(三)女命がご飯を盛ったことから名づけられた。兵庫県立フラワーセンターの園内に位置する。(加西市豊倉町・飯盛山)

【粳岡】
大(三)女命が稲を下鴨里でつかせたところ、飛び散った糠がこの岡に飛んできたことから名づけられた。(加西市網引町・糠塚山)

【河内の里】
新しい農業技術をもたらした住吉大神が鎮座したことから名づけられた鎌倉山がそびえる。(加西市河内町・鎌倉山)